

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲

Bassoon ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

I やまがたふあんたじい～吹奏楽のための～

作曲：杉浦 邦弘

この曲は Bassoon の音色が抜けて聴こえるのを目指して特に p, mp は芯のある音色でアプローチできるように心掛けましょう。

- 8小節目の Es は音程が上ずる若しくは音色が明るくなりやすいので、暗めの音色を意識して演奏しましょう。（52小節目以降の Es も同様です。）
- 11～27小節目まで上の C の発音をはっきりさせるために親指の C key を忘れずに使しましょう。
- 27小節目からの旋律は音域が高めなので、アンブシュアが硬くならないように息の支えを十分に意識して演奏しましょう。
- 93小節目以降のスタッカートはととても短く音を切れる様に反応の良いリード選びも大切です。それでも短くならない人はリードの啞える深さを浅めにしてみると多少は反応が良くなり短くしやすくなると思います。
- 140小節目からの対旋律は豊かな響きで積極的に演奏しましょう。140小節目の出だしは弱々しくならない様にしっかりと入りましょう。140, 141小節目の B \flat -As-B \flat の繋がりは B \flat の音が潰れやすく、As は上ずりやすい音の並びなので注意しましょう。この旋律は音程をしっかりと出して丁寧に演奏できる様にハーモニーディレクターやピアノを使って練習しましょう。

II マーチ「ブルー・スプリング」

作曲：鈴木 雅史

この曲はマーチの課題曲では珍しく Bassoon パート全編音域が高く書かれており、高音を出すコツが掴めていないと中々つらいと思います。高音域を出すトレーニングとして高音の B \flat , H もしくは C の運指に Low cis key（左手小指下）を付け足しノンタンギングでロングトーンをして高音域の息づかいを覚えると高音域の演奏のヒントになると思います。決して唇で噛んで吹くことのない様ロングトーン練習しましょう。

- [C] からの ff を演奏しながらこの先25小節目にある対旋律が ff から mp に音量が落ちることを意識して、勢いが残ってしまい力まない様に注意しましょう。（後半練習記号Hからも同様です。）
- 31, 32小節目の C は上記で紹介した Low cis key を付け足すと安定してしっかりと息を吹き込むことができるので試してみてください。
- Trio からの対旋律は特に音域が高く、音程も取りづらいのでハーモニーディレクターやピアノ等で音取りをして音のイメージをしっかりと持ちましょう。
- [J] は音の輪郭がはっきりと出るように発音に注意しましょう。

III ジェネシス

作曲：鈴木 英史

この曲も高音域が多く出てくるので、課題曲 II で紹介したロングトーン練習をして高音域の音作りをするのをお勧めします。また、この曲の特徴として音価が長いリズムが多いので、長い音がベタ吹きにならない様に音の最後にリリースを付けることを心掛けましょう。

- 10小節目の3拍目 F と次の Es が繋がって聴こえない様に F の最後リリースをして直後の Es を意識してはつきりタンギングしましょう。11小節目2拍目、12小節目3拍目も同様です。11小節目の B \flat -G \flat の運指が難しいので、特に親指の動きを素早く動かすことを意識して練習しましょう。（35小節目も同様です。）
- [B] は B \flat ロングトーンが多く出てきます。Bassoon の B \flat は安定しづらい音なのでしっかりと息を入れて音が潰れないように演奏しましょう。Low cis key（左手小指下）を付け足すと音のつぼができて楽になるので試してみてください。
- [C] と [H] が特に音程が取りづらく、音が硬くなりやすいのでハーモニーディレクター、ピアノ等を使いしっかりと音取り練習をしましょう。
- 全体的に落ち着いたテンポで進行していくので、1音1音丁寧に豊かな響きで音づくりをしましょう。高音の A, B \flat , H, C の運指において左手の親指が疎かになりがちなので、親指をしっかり動かして綺麗な発音を目指しましょう。

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲

Bassoon ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

Ⅳ サークスハットマーチ

作曲：奥本 伴在

この曲はテンポが速いので遅れない様に気を付けるのは勿論ですが、発音をマルカート気味に意識して歯切れの良いリズムを目指しましょう。（指も意識してはっきり動かすことも大切です。）課題曲用に反応の良いリードを選ぶと良いと思います。

- 冒頭 2 小節間のタイの音の処理をきちんとリリースしてシンコペーションの 4 分音符が遅く重たくならないようにしましょう。（タイの 8 分音符をリリースすると丁度良いと思います。）
- [A] からの 3, 4 拍目によく出てくるリズムの 16 分音符をかなりはっきり発音してリズムを浮き立たせましょう。
- 31, 32 小節目の Es がカんで音が硬くならない様にたっぷり息を使って響かせましょう。
- 40 小節目の F はスラーの途中ではありますが少しだけリリースをして直後の 8 分音符を 41 小節目に向かい、B ♭ - A - C - B ♭ をしっかり歌い込みましょう。
- 44 小節目 4 拍目はスラーの中でタンギングしますが直前の 2 分音符よりも強くならない様に気を付けましょう。
- [E] から mp と書いてありますが弱々しくならない様に豊かな響きで演奏しましょう。
- 51～53 小節目は音程が取りづらいのでハーモニーディレクターやピアノを使って音取り練習をしましょう。特に 51 小節目の As は音が潰れやすかったり、Ges は音程が高くなりやすいのでゆっくり丁寧に音づくり練習をしましょう。
- [H] から書かれているスタッカートは特に音の発音に気を付けてはっきりと発音しましょう。

Ⅴ 憂いの記憶－吹奏楽の為の

作曲：前川 保

普段から自分に合った音色のリード選びをしていると思いますが、現代曲を演奏する際いつものクラシカルな豊かな響きをするリードよりも少し硬めの音色ではっきりと輪郭の出るリードを選択することをお勧めします。全体としてリズムは基本マルカートを意識して演奏しましょう。

- 全体的に Bassoon セクションに書かれているダイナミクスで演奏すると他の楽器よりもファゴットの音色的に聴こえづらいので、楽譜の音量から 1 段階上の音量だと思ってアプローチして下さい。
- 曲の様々な場面で 1st, 2nd 共に p, pp から始まりますが、怖がって発音が不明瞭若しくは音の不発にならない様にしっかり発音しましょう。その際 p の音色（暗めの音色）でたっぷり吹くことを心掛ければ Bassoon の音が浮くことは無いと思います。
- 15 小節目の 2nd Bassoon が先行して演奏するので p ではありますが発音をしっかりと輪郭をはっきりさせることを心掛けましょう。直後に半音上で 1st が入り音がぶつかりますが、音量の比率は 1 : 1 で対等に演奏してバランスよく音をぶつけましょう。（21 小節目以降の場所も同様です。）
- 34 小節目は 1st, 2nd 共に既に他の楽器から繋がっているので発音ははっきり、芯のある音色で埋もれない様に積極的に演奏しましょう。くれぐれも表記は pp なので音色は明るくならず暗めを心掛けましょう。
- 49 小節目は 1st に先行して 2nd Bassoon からベルトーンで重なっていくのでしっかりと入りましょう。
- [77] からの solo は先ず拍の頭がきちんと記譜の音が来る様にメトロノームで練習しましょう。全ての音を C などの 1 つの音にしてリズムだけで練習するのも効果的です。中々普段巡ってこない Bassoon の solo なので音色が引っ込むことなく楽器をしっかりと鳴らして積極的に全ての音をしっかりと演奏しましょう。音量も書いてあるものよりも 1 段階上げて演奏すると良いと思います。スラーの繋ぎ目のタンギングもしっかり発音しましょう。